**21．小細胞性肺癌の脳転移放射線治療後に長期無病生存中の1例**

群馬県立がんセンター放射線科
桜井英幸，前原康延，橋田　巌
中山優子，境野宏治

55歳の男性，肺小細胞癌中間細胞型 T3N2M0 臨床病期III (1978, UICC)と診断され50Gyの照射を施行しCRの状態となった．1年6カ月後右頭頂葉に独立性脳転移を生じたため44Gyの照射を施行し顕著な麻痺の改善と腫瘤の縮小を認めた．その後CPAおよびVCRを用いた化学療法を約8カ月間施行し初診から7年8カ月間障害なく無病生存中である．